

2021年12月4日

待降節第二主日

菊地功大司教 メッセージ

洗礼者ヨハネの出現を伝えるルカ福音は、イザヤ書を引用しながら、ヨハネの先駆者としての役割を明確にします。福音は、洗礼者ヨハネは「荒れ野で叫ぶもの」と記しますが、「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と叫ぶその声が、救い主である主の到来を準備させるためであり、それによって、「人は皆、神の救いを仰ぎ見る」と記します。

救いの完成を求めて主の再臨を待ち望む私たちは、現代社会にあつて「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と呼びかける声となるよう求められています。

混沌とした事象が複雑に絡み合う現代社会の現実にあつて、主を迎える準備を整えよと叫ぼうとする私たちには、「本当に重要なことを見分けられる」目が必要です。パウロはフィリピの教会への手紙で、そのためにはわたしたちが、「知る力と見抜く力とを身につけて」愛を豊かに深めることが必要だと指摘します。先駆者としての役割を果たすにあつて「神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った」ように、私たちも神の言葉によって心が満たされるように聖霊の導きを祈り続けなくてはなりません。

現代社会にあつて「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と叫ぶ役割は、キリストに従うすべての人に求められているとは言え、同時にそのために生涯を捧げる人の存在も不可欠です。

教会は12月の最初の主日を、宣教地召命促進の日と定めています。

この日わたしたちは、「世界中の宣教地における召命促進のために祈り、犠牲をささげます」。またこの日の献金は「教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭養成のための援助金としておくられ」ることになっています。もちろん日本は今でもキリスト者が絶対的な少数派である事実から宣教地であることは間違いなく、その意味でも、日本における福音宣教を推進するための働き手の存在は不可欠です。同時に、司祭一人あたりの信徒

数から言えば、アジアやアフリカの教会と比較しても、実際には司祭数は多い教会でもあります。もう 30 年も前のことになりますが、わたし自身、アフリカのガーナの小教区で働いていた頃、一人で 20 を超える教会共同体を担当していました。教会は、司祭を始め福音宣教に生涯を捧げる人を必要としています。荒れ野にあって、「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と声を上げる存在が必要です。洗礼者ヨハネのように、「本当に重要なことを見分けられる」目を持ち、勇気を持って困難に立ち向かう存在が必要です。

この一年を聖家族の長である聖ヨセフの年と定められた教皇様は、今年 4 月の世界召命祈願日のメッセージで、聖ヨセフの生涯を貫く特徴的な生きる姿勢に触れ、その中で、忠実であることに関して、こう記されています。

「聖ヨセフの生涯とキリスト者の召命を貫き、日常生活を漠とはしないもの。忠実です。ヨセフは「正しい人」で、日々の労働を黙々と続け、神とその計画に粘り強く従うかたです。とくに困難なときには、「あらゆることを考え」ています。熟慮し、熟考し、焦りにとらわれず、性急に結論を出す誘惑に負けず、衝動に流されず、近視眼的な生き方をしません。何事にも根気強く励みます。最高の選びに忠実であり続けることによるのみ、人生は築かれると知っているのです」

教皇様は聖ヨセフに倣って生きるようにと、この一年を聖ヨセフの年と定められ、間もなく 12 月 8 日に特別年は終了します。宣教者の召命を考え祈るこの日、洗礼者聖ヨハネと聖ヨセフという二人の生き方を黙想し、それに倣って、勇気を持ってまた忠実に、福音を告げましょう。